

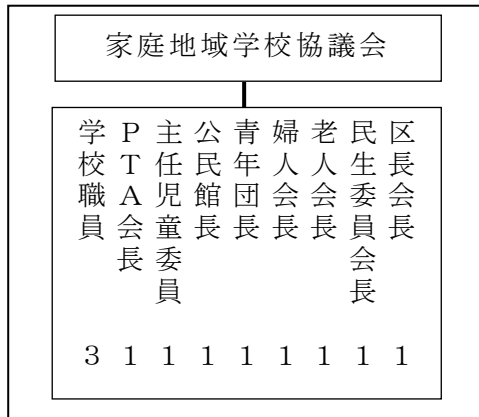
【様式3】 令和元年度福井型コミュニティ・スクール報告書

『内外海の素晴らしい自然や伝統を未来につなごう』

小浜市立内外海小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成 (2) 協議会の開催計画 開催回数



- 6月27日(木)
趣旨・活動方針・学校経営計画等の説明
- 9月12日(木)
地域と連携した学校行事
「ふるさと駅伝大会」について
- 2月27日(木)
評価結果の考察、今年度の反省

地域コーディネーター(3名)
公民館長(1名)・体験学習指導者(2名)

(3) 協議会における成果と課題

- 地域の方からのご協力を得て、駅伝大会の見直しを進めると共に、新たに地域の活性化プロジェクトを立ち上げる等、様々な体験活動を実施することができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 内外海の歴史・文化・産業・人々について調べたり、自分の思いや考えを発信したりする活動を通して、ふるさとに対する愛着や誇りを持つ児童を育成する。
- 内外海の食についての調査や体験(地域を活用した体育的行事を含む)等の活動を通して、ふるさとの食に親しみ健康を考えることのできる児童を育成する。
- 内外海の自然環境についての調査や体験等の活動を通して、自然環境に対する望ましい価値観や資質を持つ児童を育成する。

(2) 活動の実際

① 6年生 『内外海活性化プロジェクトⅡ』

地域の歴史(特に鯖や鯖街道)と共に内外海の田鳥地区で「へしこ」や「鯖のなれずし」作りが盛んに行われてきた理由を学習することで、子どもたちは、地域の伝承料理「鯖のなれずし」だけではなく、鯖街道踏破に興味関心を持つようになった。そこで、鯖街道の起点となっている小浜市いづみ町から京都市出町柳の枳形商店街までの行程を3回に分けて踏破し、枳形商店街では、「ふるさと小浜」をアピールすることにも成功した。この体験学習を通して、子どもたちは、内外海で獲れた魚が京都(都)の食を支えていたことや鯖街道が日本遺産第一号に認定されたことに誇りを持ち、ふるさとの歴史や文化について学ぶことができた。その後、鯖の養殖についての学習を深め、「鯖のなれずし」



作りのゲストティーチャーから、その作り方を学んだ。また、修学旅行では、大阪市京橋商店街において、鯖の缶詰やわかめ、手作りの米の販売活動を行った。

② 5年生 『令和元年★内外海活性化プロジェクト』

子どもたちは、地域の人たちと一緒に米作りに取り組んだり、定置網漁を体験・見学したりすることで、地域の農業や水産業に関する課題について考えた。特に水産業に関しては、内外海地区の活性化に携わる方々から話を聞き、環境問題についての課題を発見し、海の環境保全についての活動を行うきっかけとなった。これら学習を通して、内外海地区の海（自然）の豊かさを改めて実感することもできた。

さらに、6年生と共にその内外海地区（阿納・犬熊）の海での遠泳大会を行い、地域の方への感謝の気持ちを持つと共に、ふるさとの海への愛着を深めることができた。



③ 4年生 『内外海のくらしをよくするプロジェクト～わかめの可能性にせまる～』

わかめの生長の過程や、海の環境について知るために、福井県立大学出張キャンパスを受講し学びを深めることができた。そこでは、わかめの生態を知ると共に内外海地区でわかめが育つのは波が少ないことや山の栄養を蓄えた豊かな海であることを知ることもできた。

また、内外海地区の海で働く人と関わるために、わかめの養殖種付け体験を行った。屋外での作業を通して、子どもたちは、海の仕事に関わることの厳しさと楽しさを感じることができた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- 鯖街道踏破の体験活動に同行し、児童の活動支援を行った。また、体験活動中は、様々な情報や知識をもとに子どもたちにアドバイスを行った。
- 梅もぎ、鯖なれずしの学習、定置網漁など様々な体験活動において、準備と子どもたちへの適切な指導を行った。

（4）特に工夫した事項

- 様々な体験活動を行う上で、積極的に地域の人材を活用したり、関係機関と協力・連携したりして学習を深めたこと。
- 学校行事（学習発表会、修学旅行）や「ふくいユネスコフォーラム」において、学習の成果を工夫して発表、発信したこと。

（5）成果と課題

- 様々な体験活動ができる地域の特性を生かして、年間を通したロングスパンの学習を計画し、地域と連携した学習を展開することができた。また、地域の良さや活性化策を学校の内外で発信することもできた。活動を通して、子どもたちの中に地域の一員として「ふるさと内外海」を誇りに思い、大切にしようとする自覚がより高まった。
- 今後は、子どもたちが興味・関心を持ったことをテーマとして学習を進めていく中で、学年の系統性を考え、子どもたちに育てたい資質・能力を明らかにして学習を計画・展開していくことが大切である。